

【熊本支援学校】交流及び共同学習

～ポッチャ等を活用して心のバリアフリーをすすめよう～

1 交流の概要

学部	交流相手校	相手校人数	実施日及び内容
小学部	熊本市立出水南小学校 4年	142人	毎週火曜日 13:20～ レクリエーション・ゲーム・ポッチャ等の遊び
高等部	熊本県立熊本商業高等学校 2年8組	41人	11月1日(金) 9:50～14:30 「職業」作業製品づくり、「体育」ポッチャ

2 交流の実際

【小学部】

出水南小学校との交流は、今年で39年目を迎え、これまでに実施した回数は1000回を超える伝統があります。両校で「共に学び合う」「お互いを尊重する」ことを大切にし、ゲームや遊び、制作などの活動内容を行い、一緒に活動をする交流パートナーを年度初めに決めて、1年間じっくり関わっています。今年度は、ポッチャやソフトフォームボウリング等の用具を活用することで充実するようにしました。



(児童の感想)

- あいてチームのボールに向かって、自分のボールを強くなげられてうれしかったです。ポッチャはとてもいいです。(本校)
- ポッチャのルールを簡単に工夫がしてありました。立つ位置が人によって違っていいと思いました。パートナーは、私が手を添えて投げて嬉しそうにしていたので良かったです。(出水南小学校)

【高等部】

熊本商業高等学校との交流は、十年以上続いており、両校の定例行事として確立されています。本校高等部の職業科の授業で制作した作業製品を、熊本商業高等学校に納品し、熊商デパート（熊本商業高等学校の販売会）で委託販売を行っており、お互いのことを知る機会として一緒に作業製品を作ったり、レクリエーションをしたりする交流を行っています。今年度は、「職業科」における作業製品づくりを共に行う活動と、「体育科」でポッチャを一緒に行う活動を実施しました。



(生徒の感想)

- ポッチャでは一緒に盛り上がり活動ができてうれしかったです。(本校)
- 最初は不安だったけど話をして楽しかったです。とても良い雰囲気でもッチャも一緒に楽しむことができました。(熊本商業高等学校)

3 来年度への展望

【小学部】毎週実施しているため、これからもお互いの児童が好きなことが何かをじっくりと話を聞くなどして確認をしながら、さらに充実した活動となるよう内容を検討していきたいと思います。

【高等部】今後、本校の生徒数の減少が考えられるため、作業製品を製作する交流活動の実施が困難になることも考えられますが、これからも活動内容を工夫しながら、互いのことが理解しあえる交流を、継続していきたいです。

【大津支援学校】 スポーツでの交流及び共同学習

～ボッチャで交流の輪を広げよう～

1 交流の概要

【小学部】

- 小学部では大津町立室小学校と学年毎の交流及び共同学習を行っています。
- 小学部 4年では室小学校の4年とのボッチャでの交流を11月に実施しました。

【中学部】

- 中学部では大津町立大津北中学校と学年別で交流及び共同学習を行っています。

2 交流の実際

【小学部】

<ルールの工夫>

それぞれの学校が協力して取り組むことができるよう、ルールを通常のルールから少し変更し、ボールを3種類にして、3方向から投げるような活動の工夫を行いました。

<作戦タイム>

ゲームの前に作戦タイムの時間を作りました。初めは室小学校の児童が中心となって話を進めていましたが、ゲームを重ねると「どのタイミングで投げるか」「大津支援学校の投げる順番をどうするか」等、それぞれの学校の児童同士で話し合う場面も見られました。

<ゲーム>

ゲームでは、自然に手をつないだり、ハイタッチをしたりすることもありました。また、全員で円陣を組んでかけ声をするチームもありました。

<感想から>

「難しかったけど楽しかった」「またボッチャをしたい」「支援学校の友達が投げるのが上手だった」との感想が多く出ていました。児童同士に大きな交流の輪ができました。

【中学部】

<事前学習>

事前学習として、体育でボッチャを行ったことで、ゲーム内容を理解して交流での活動に取り組むことができました。

<交流活動>

ゲームを行っていく中で、次第に「いいね」と声を掛け合いタッチしたり、「もう少し弱く」とアドバイスをしたり、自然に関わりを深めていくことができました。

<感想から>

生徒自ら「とても楽しかった」と答える生徒が多く、活動への達成感や成就感を強く感じていました。交流を通してお互いをよく知る機会となり、交流の広がりを感じました。

3 来年度への展望

- ボッチャはどの児童生徒もできるスポーツなので、今後もスポーツ（ボッチャ）を使った交流は続けていきたいと思えます。
- スポーツを通しての交流を行ったことで、全員参加型となり充実したものになりました。さらにより良い交流にするためには、ルールの改善や内容の検討は必要なので、交流の打ち合わせの際に、ルール等をしっかりと確認をして取り組んでいきたいと思えます。
- 事前学習をしたことで、ゲームの内容を理解して取り組むことができました。交流の打ち合わせでルールを確認した後に、体育や昼休み等の時間に積極的にボッチャを使って練習ができれば、交流活動がさらに楽しく充実したものになると思えます。

【小国支援学校】 交流及び共同学習

～心のバリアフリーをすすめよう～

1 交流の概要

【小学部】

- ア. 5 / 29 : 中原小学校全児童 : 花苗植えの交流、ボッチャ
- イ. 12 / 3 : 小国小学校 4年2組 : ボッチャ
- ウ. 12 / 5 : 小国小学校 4年1組 : ボッチャ
- エ. 12 / 10 : 中原小学校全児童 : Tボール、紙芝居、ボウリング、ダンス

【中学部】

- ア. 5 / 30 : 南小国中学校 3年生 : パックカーリング、ボッチャユニカール
- イ. 5 / 31 : 南小国中学校 1年生 : パックカーリング、ボッチャユニカール
- ウ. 9 / 30 : 小国中学校 7年1組 : 自己紹介すごろく、ボッチャユニカール
- エ. 10 / 1 : 小国中学校 7年2組 : 自己紹介すごろく、ボッチャユニカール

【高等部】

- ア. 7 / 12 : 小国高校 1年生 : ボッチャ
- イ. 9 / 14 : 小国支援カップ

2 交流の実際

【小学部】

小学部では、南小国町の中原小学校と20年以上前から年に数回の交流を行っています。回数を重ねるたびに、本校の児童も同世代の友達と関わろうとする姿が見られるようになり、相手校の児童も、「支援学校のこの友達にはこの役割ができる」とか「この活動なら支援学校の友達が喜ぶ」など、相手のことを考え工夫する姿が見られるようになってきています。具体的には、事前に渡してあった児童の自己紹介カードを校内に掲示していただき、常にカードが見られるようにしていただきました。そのカードには、児童の好きなことが書かれており、その情報を元に、小学校の児童達が自分たちでレクリエーション（魚釣り、ボウリング、ダンス等）を考え、本校の児童達も意欲的に参加することができました。相手のことを思っ関わるといった、継続した交流の成果があらわれているのではないかと感じます。

【中学部】

近隣の中学校2校と交流を行っています。例年、1学期には南小国中学校1年生・3年生と各1回ずつ、2学期には小国中学校7年生（中1）2クラスと各1回ずつの交流です。どちらの学校とも、開会式、各グループでの自己紹介、レクリエーション（2種類）、閉会式という流れで行っています。中学部では交流および共同学習を行うこの期間、単元名「〇〇中学校と交流をしよう」ということで学習に取り組んでいます。事前学習では教師と相談しながら交流での目標を立てています。「開会式でのあいさつをがんばる」「グループの人に聞こえる声で自己紹介をする」など、一人一人交流の内容から目標を考えています。また中には「休憩時間にグル

ープの人と腕相撲をする」「好きなゲームを聞く」など休憩時間の過ごし方に焦点をあて目標を立てる生徒もいます。交流のプログラムとしてはレクリエーションが中心で意図的に設定された交流の場面ですが、休み時間は自分から積極的にかかわる必要のある場面だと思います。そのような時間帯に自分自身の目標を持ち交流を有意義なものにしようとする生徒の姿に、本物の交流を見るような気がします。

【高等部】

高等部では、小国支援カップ（ボッチャ大会）で、高等部の生徒達が企画運営を行い、大会中も受付や放送（進行）、招集係やボッチャの審判等を務めました。審判については、日頃の体育の授業で繰り返し練習を行ってきたことで、大会中も自信を持って取り組むことができました。大会には、日頃から交流及び共同学習を行っている近隣の小・中・高等学校や交流のある特別支援学校の児童・生徒、合わせて68人（18チーム）に参加していただき、実施をすることができました。また、大会後に行ったアンケートでは、「また来年ボッチャがあることを祈ります。」「楽しかったです。学校でもしてみたいと思います。」「大人と子どもがいっしょになって公平にできるスポーツとして、もっと多くの子ども達に広めていきたいです。」といった声が多く聞かれ、ボッチャが小国郷内で広まっているのを感じることができた大会となりました。

3 来年度への展望

平成31年度は、小国町のローカルテレビを使って「小国支援カップ」のことやボッチャ（障がい者スポーツ）についての紹介をすることがあまりできませんでした。今年にはオリンピック・パラリンピックが開催されることもあり、パラリンピック種目でもあるボッチャにも注目が集まると予想されます。この機会を生かし、「小国支援カップ」やボッチャに限らず、小国支援学校の交流及び共同学習を含めた教育活動をテレビ局や広報誌で事前に広く発信し、地域での障がい者理解にさらにつなげていきたいと思います。

【松橋支援学校】あかるく・はずんで・はっぴーに！ ～地域に広げよう！“あはは”の輪～

“あはは”は
中学部で生まれた
合言葉です

松橋支援学校は、小学部から高等部まで、幅広い年齢層の様々な個性と可能性をもった児童生徒が、県内全域から集う知肢併置校です。地域の方々や同世代の友だちとの交流を通して、“あかるく・はずんで・はっぴー”になれる、“あはは”の輪が広がっています！

1 交流の概要

小学部（肢体不自由）			
氷川町立竜北西部小学校	居住地校交流	年 1 回	授業参加（音楽・図工） レクリエーション（的当てゲーム）
宇城市立豊川小学校	学校間交流	年 2 回	本校の授業参観（自立活動） レクリエーション （小学生が考案したゲーム：ボウリング等）
宇城市立海東小学校	学校間交流	年 2 回	本校の授業参観（自立活動） レクリエーション （小学生が考案したゲーム：魚釣り等）
高等部普通科（肢体不自由）			
熊本県立松橋高等学校	学校間交流	年 1 回	レクリエーション（高校生が考案したゲーム：双六） ポッチャ・ティーボール

2 交流の実際

（1）小学部

【事前打合わせ及び事前授業を丁寧に】

余裕をもって準備等を行えるよう、教員同士の事前打合わせを夏休みに実施した。交流相手校の子どもたちへの事前授業において“障がい”について話をしたところ、とても真剣な表情で聞き入る様子が見られた。



小学部「笑顔で心通わせて」

《交流相手校の子どもたちより》

- 支援学校でどんな勉強をしているのかを知ることができてよかった。
- 支援学校の友だちが“身体で気持ちを表現している”ということが、1年生のときより3年生になった今、だんだん分かるようになった。

あははの輪

（2）高等部普通科一般学級・重複障がい学級

【同じ高校生として～“敬語禁止”ルール～】

高等部普通科一般学級・重複障がい学級と松橋高等学校（普通科福祉コース選択）2，3年生は、ここ数年継続して交流を行っている。交流の前に本校の教員が赴き、事前授業を行うことも定着している。今年は、その中で、“障がいがあるとなかろうと同じ高校生同士”ということで、“敬語禁止”という当日限定ルールを提案した。

このルールには、“お互いが心開いて対等にかかわってほしい”という意図があった。

交流当日、改めてそのルールを確認すると、はじめは双方の生徒たちともに戸惑う様子が見られたが、徐々に“友だち言葉”で声を掛け合うようになった。交流の終盤には、例年以上に打ち解けた様子が見られ、和やかな雰囲気ですべてを終えることができた。



高等部普通科
「“友だち言葉”でボッチャの交流」

《松橋高等学校の生徒より》

あははの輪

- “敬語禁止”ルールも、最初は緊張したが、そのおかげでより親しく話をすることができたと思う。“同じ高校生”ということ意識することができた。

3 来年度の展望

今年度の各学部の実践を振り返ると、数年間に渡る地道な実践が、本校及び交流相手の児童生徒、地域の方々の変容として表れ始めていると感じる。「限られた時間、異なる教育課程・スケジュールの中での日程調整」は、全学部・学科に共通する課題であるが、その中でいかにして回数を重ねるか、回を重ねることが難しければ、1回の取組の内容、かかわりの方法をいかに工夫するか。本校の場合は、各学部の実践の中に、すでにヒントや答えがあるものとする。その一つ一つを学校全体で共有し実践に移すことが、それぞれの課題解決につながると考える。今後も「地域に開かれた学校」を目指し、知的障がいと肢体不自由の併置校としての実践の中で培ったノウハウを生かしながら、「あははの輪」を広げ、より確かなものにしていきたい。





【芦北支援学校】交流及び共同学習

～心のバリアフリーをすすめよう～

1 交流の概要

【小学部】 6, 10月 佐敷小学校 7, 11月 芦北幼稚園 9月 吉尾小学校	【中学部】 6, 9月 佐敷中学校	【高等部】 6, 11月 芦北高校 農業科	【佐敷分教室】 6, 10月 芦北高校 農業科 7, 12, 2月 林業科 9～11月 福祉科
---	----------------------	-----------------------------	---

2 交流の実際

小学部	<ul style="list-style-type: none">・ゲーム、制作活動、ポッチャをして交流しました。・事前にビデオレターを交換することで、交流への期待感が高まりました。・声の掛け方、間の取り方、補助具の使い方など、交流校の子どもたちに活動の中で伝えることで、緊張した表情が笑顔あふれるかわりへと変わりました。	
中学部	<ul style="list-style-type: none">・ダンスやレクリエーションを通して、交流を深めました。・障がいのある生徒と一緒に活動を楽しむために、環境面での工夫（バリアフリー）、目には見えない思いやり（心のバリアフリー）をテーマに中学部職員が佐敷中学校に出向き、事前学習を行いました。・レクリエーションに使用する補助具を中学生がアイデアを出し合って制作し、それらを活用して交流学習に取り組みました。・お互いに思いやりを持ち、一緒に様々な活動に取り組み、とても良い交流及び共同学習となりました。	
高等部	<ul style="list-style-type: none">・「花の苗植えとプランターの飾り付け」「筒倒しゲーム」を通して交流しました。間接交流では「壁新聞」を制作して、文化祭で掲示していただきました。・初めて会ったにもかかわらず、すぐに打ち解けて互いに声を掛け合うなど、思いやりの気持ちを育むことができました。・本校の学習や活動内容を知っていただく良い機会となりました。	
佐敷分教室	<ul style="list-style-type: none">・芦高祭に向けての発表練習を通して交流を行いました。・1年生は合唱、2年生がダンス、3年生は手話歌を各学年で練習をして、交流の時間に芦北高校の福祉科の生徒と分教室の生徒で教え合う姿が多く見られました。・「分教室、芦高に関係なく、団結して練習ができて、本番は、いつも以上の力が出せた」という感想がありました。	

3 来年度への展望

学校間の交流は長い間続いています。そこでの子どもたちの出会いは一期一会です。一つ一つの出会いを大切にしながら内容を考えて交流を続けていきたいと思っています。

【熊本県立球磨支援学校】

「くまポッチャ」による交流及び共同学習

1. 交流の概要

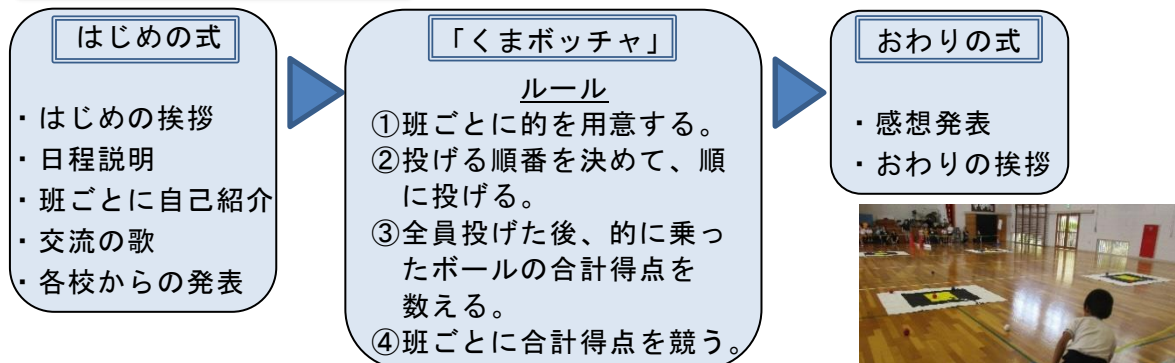
本校では地域の小学校 11 校と交流及び共同学習を行っています。令和元年度の交流では、下記の目的のもと「ポッチャ」を児童の実態に応じてルール変更を行った「くまポッチャ」を主な活動に設定して取り組みました。

目的

本校の児童の生活経験を広げ、社会性を養い、豊かな人間関係を育むために、人吉球磨管内の小学校の児童と触れ合い、共に活動する交流及び共同学習の充実に努め、相互理解を図る。

2. 交流の実際

交流当日の流れ



「くまポッチャ」の様子

3. 児童同士のかかわりを増やすための工夫点

工夫 1：自己紹介カード&DVDによる事前学習

事前に児童の顔写真と名前、好きなことを記した自己紹介カードと児童の学校生活の様子を紹介したDVDの貸し出しを行った。

- ・互いに名前呼び合うことで、親近感をもつことができた。
- ・「何の歌が好き？」と好きなことに関する質問をし合い、会話が広がるきっかけになった。

工夫 2：得点チャンピオン&応援チャンピオン

「くまポッチャ」の中では、総合得点が高かった班を「得点チャンピオン」として表彰することに加え、友達への応援が良かった班を「応援チャンピオン」として取り上げ表彰した。

高得点をねらって班で協力する姿の他に、「〇〇くん、がんばれ！」と友達を応援する言葉や、投球後に班のメンバーでハイタッチをして喜び合うなどのかかわりが見られた。

工夫3：場の設定

はじまりの会や「くまポッチャ」のゲーム中は、本校児童と交流校児童ができるだけ交互に座るようにし、かかわりやすくなる場の設定を行った。



児童同士で「次は〇〇くんだよ。」と順番を促したり、「好きな車は何？」と会話をしたりする姿が多く見られた。
また、本校児童が交流校児童に対して「席はここだよ。」と、進んでコミュニケーションをとる姿も見られた。

工夫4：「くまポッチャ」の道具

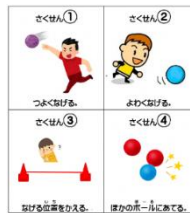
- ①くまポッチャで使用するランプを手持ち式にしました。
- ②「作戦ボード」を設置しました。
- ③数量が視覚的に分かるように「得点ボード」を用意しました。



- ①児童同士が協力しながらランプの方向を話し合ったり、角度を調整したりする姿が見られた。
- ②ボードの作戦を使って「作戦4番。」「弱く投げよう。」など、アドバイスをし合う姿が見られた。
- ③かけ算で得点を計算する児童、得点ボードで数字を表示する児童など、役割分担して合計得点を数える姿が見られた。



①手持ち式ランプ



②作戦ボード



③得点ボード

4. 来年度への展望

本校は、人吉球磨地域唯一の特別支援学校であるため、地域の小学校からの交流及び共同学習の実施へのニーズが高い。そのため、1～6年生全員が年間14回の交流及び共同学習を実施しており、年間指導計画において交流に関わる学習の割合が高い。

課題①

教育課程上で交流及び共同学習と他の学習活動のバランスの見直しが必要。

- ・本校の交流対象学年の絞り込み。
- ・数校の小学校との合同での交流及び共同学習の実施。

課題②

交流相手校にとっては、1～2回の限られた交流であるため、経験を積み重ねながら障がいへの正しい知識と理解を深めていくことが難しい。

本校と交流相手校で連携して、具体的な交流目標の設定、目標達成のための具体的な手立てについて共通理解を図る。

課題③

地域への障がいにおける正しい知識理解の発信・啓発の機会が乏しい。

- ・交流時に交流相手校の保護者参観を計画。
- ・地域の行事に積極的に参加し、活躍する姿を通じた啓発の充実。

【茶北支援学校】交流及び共同学習

～心のバリアフリーをすすめよう～

1 交流の概要

	学部	交流相手校	場所	活動内容
1 学期	小学部	町内小学校 4校と計 5回	本校	ボッチャ
	中学部	町内中学校 1校と計 4回		ボッチャ
	高等部	町内高等学校 1校と計 1回	相手校	相手校手作りのゲーム活動
2 学期	小学部	町内小学校 4校と計 5回	本校	ビーンボウリング
	中学部	町内中学校 1校と計 4回		相手校手作りのゲーム活動 ビーンボウリング
	高等部	町内高等学校 1校と計 1回		ビーンボウリング

2 交流の実際

【小学部】

みんなが一目で分かりやすいよう、得点をビーンボウリングのピンの裏に貼り付ける等、特別ルールで行いました。また、事前に紹介動画を見てもらい、当日どのように関わればよいか考えてもらう等、児童同士で関わり合うことを意識して取り組みました。当日は児童同士の積極的な関わり合いが見られ、お互いに理解を深める貴重な経験になりました。



ビーンボウリング

【中学部】

交流相手がボールを手渡したり、ランプス（ボールを転がす傾斜台）を支えたりしながら交流を深めました。交流相手と本校の生徒が協力してボールを転がし、点数が入るたび、チーム全員で喜んでいました。初めてのビーンボウリングでの活動でしたが、ピンに当たった時に音が出たり、ピンが回ったりして、本校の生徒にとって得点が入ったことが分かりやすかったです。



ランプス

【高等部】

交流相手の生徒がランプスの方向を調整し、その後、本校生徒がボールを転がすなど、高得点を目指して、協力しながら交流学習に取り組みました。ピンに当たり音がすると、みんなでその得点に注目し、ハイタッチをして喜び合ったり、名前を呼びながら応援したりする姿が見られました。学習の終わりには涙を流しながら、「またね。」と挨拶をする姿が印象的でした。



3 来年度への展望

今年度は、ボッチャやビーンボウリングを通して交流学習に取り組みました。本校の重度重複障がいのある児童生徒が、できる力を生かして、自分らしく、主体的に取り組む楽しむことができるよう、今後も補助具の作成やルールの変更など、実態に応じて工夫改善をして効果的に活用していきたいです。また、地元の同世代の人達との関わりにより、障がい者理解にもつながり、本校の児童生徒にとっても、経験の広がりや社会参加の貴重な機会となるので、交流相手校と連携しながら、継続して取り組んでいきたいです。

【熊本県立松橋東支援学校】 交流及び共同学習

～心のバリアフリーをすすめよう～

1 交流の概要

【幼稚部】松橋幼稚園の年長児との交流及び共同学習を20年以上実施している。年度当初、松橋幼稚園にて担当者、主任が集まり本年度の実施回数、期日、内容等について年間計画を策定。

①松橋東支援学校での活動 6月・9月（2回）

②松橋幼稚園に出向いての活動 10月（1回）

【小学部】松橋東支援学校が事務局となり、当尾小学校、豊福小学校との交流及び共同学習を40年近く実施している。前年度の3学期に3校の担当者が集まり、実施回数、期日等について年間計画を策定。

(1) 松橋東支援学校での活動

宇城市立当尾小学校4年1, 2組（6月・10月に各2回ずつ）

宇城市立豊福小学校4年1, 2組（6月に各1回ずつ）

宇城市立豊福小学校6年1, 2組（9月に各1回ずつ）

(2) 宇城市立当尾小学校との音楽活動（9月に1回）

(3) 宇城市立豊福小学校との社会見学（10月に1回）

2 交流の実際

【幼稚部】

6月合同で「制作活動」や「集団遊び」を実施。「制作活動」は、9月の「音楽会」の背景画として使用し、活動に連続性があるようにしました。9月の「音楽会」のプログラムの中に、一緒に活動する場面、お互いの発表（音楽や楽器演奏）を鑑賞し合う場面を取り入れました。

松橋東支援学校での交流



「みんな大好き」
歌ったよ!

完成



みんなで、ひよっこりひょうたん島

松橋幼稚園での交流

② 10月 一緒に歌やゲーム、
お互いの学習の成果を発表し
合う場面を取り入れました。

「かも一つれっしゃ シュシュシュ
長い列車ができたよ!



10月



「あんたがた どこさ」の手遊びをしたよ!
「さ」でおとなりの友達へ、難しかったな～

【小学部】

豊福小学校、当尾小学校に出前授業を行い、松橋東支援学校の児童の学習の様子を動画を使って紹介しました。交流活動は、ボッチャを中心に行いました。

当尾小学校

休憩時間にみんなで、作戦タイム!!



協力して一緒に転がしたよ!最後は「パプリカ」のダンスのプレゼント!みんなで踊りました。



すごい!!
上手!ジャックボールに近くなったよ。



4年生

どっちが近いかな?みんなで、判定中!!



ジャックボールに近づけることができ、ハイトッチ!!



6年生

豊福小学校

当尾小学校4年生の音楽の授業に参加し一緒に歌を歌ったり、ペアで4拍子の指揮をしたりしました。豊福小学校4年生の社会見学にも参加し、石匠館、通潤橋等を常に友達とペアになって見学しました。

音楽の授業参加



たくさんの友達と話ができ、楽しかった!

社会見学



「一緒に食べたお弁当がおいしかった!」
「通潤橋は思ったより大きかった!」



3 来年度への展望

【幼稚部】 幼児の実態、教育効果等を考慮した集団の経験を充実させるために、松橋幼稚園への訪問回数を増やすなどして取り組んでいききたいと思います。

【小学部】 本校の教育に対する理解・啓発を図るために、年度当初の3校合同連絡会（松橋東支援学校、当尾小学校、豊福小学校）で、研修会を実施したいと思います。

また、各小学校へ出かけての交流活動は、本校児童にとってたくさんの同学年の児童と関わることができ、大変意義のある学習活動でした。次年度も教育課程、児童の実態、予算等を考慮した年間計画を作成し、相手校と協議を行い、依頼を済ませるなどして取り組んでいききたいと思います。